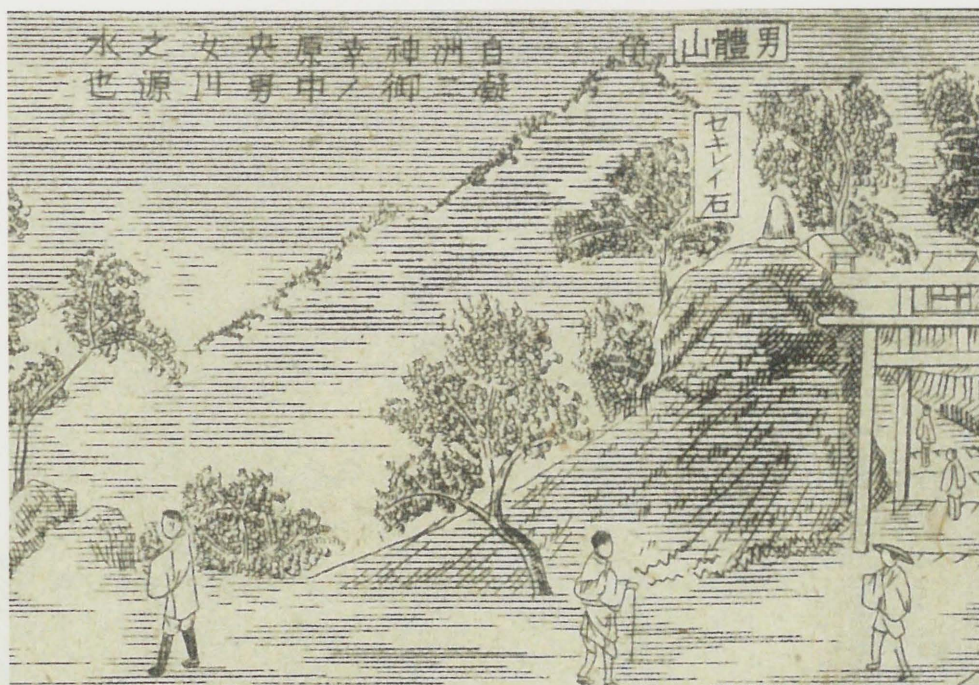


知的コミュニティ基盤研究センター
図書館情報学図書館
共催展示

筑波山について

綿拔豊昭



筑波山（男体山）・セキレイ石

2017年2月22日

筑波大学図書館情報メディア系

知的コミュニティ基盤研究センター

<http://www.kc.tsukuba.ac.jp>

知的コミュニティ基盤研究センターは、図書館情報学図書館との共催で図情図書館メディアミュージアムにおいて、おりおり特別展示を開催している。「筑波山」の展示は、2016年8月におこなわれた。

筑波山については、古くは『万葉集』にその名がみられ、後も和歌に多く詠じられている。また室町時代からさかんに興じられた連歌は、別名「つくばの道」といわれ、連歌をたしなむ人々にとっては特別な山であった。また『常陸風土記』をはじめ、筑波山が関連する伝承、物語などもある。このように文学的資料は少なからずあるが、文字資料であるため、そのままでは訪日外国人にとって魅力的な観光資源とはなりにくい。

しかしながら、その昔、筑波山は信仰の対象となっており、信仰関連の図が残っている。また名山として錦絵の対象ともなっていた。明治時代になり、廃仏毀釈の影響を受け、どちらかといえば「信仰」の山から「観光」の山に転じている。現在はなくなってしまったが鉄道も通じ、ケーブルカー（現存）がもうけられたため、観光地としてそれなりに栄え、観光パンフレットや絵はがきが作成された。これらの絵画資料は、訪日外国人にも受け入れやすく、「昔はこうだった」という歴史を感じさせる魅力的な観光資源と思われる。

観光地を訪れるにあたって携帯できる機器、たとえばスマートフォンを使用して

現在の風景→過去の風景→文字情報

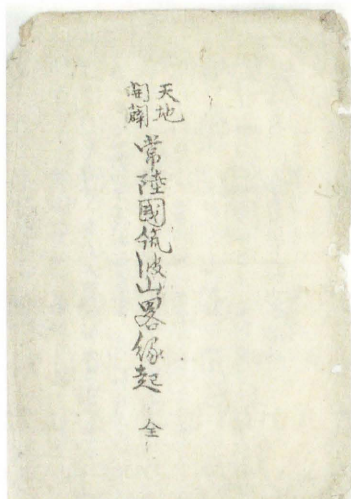
という流れで、情報を得る製品を作ることは、現在のテクノロジーをもってすれば困難なことではない。たとえば、筑波大学図書館情報メディア系の学部生である谷田幸隆氏が、卒業研究でWIXを使用した、ソフトを作成している。

今後は、単に情報を提供するのではなく、たとえばARやキネクトなどを用いて、いかに適切・的確な内容の情報にするか、いかに魅力的なかたちで情報を提供するかが課題であろう。

以下、展示資料等について紹介する。

信仰とのかかわり

- 1 伊弉諾尊、伊弉冉尊をまつるため、江戸時代「天地開闢」が宣伝文句であった



(表紙)

天地開闢 常陸国筑波山畧縁起

半紙本 袋とじ 一冊 木版

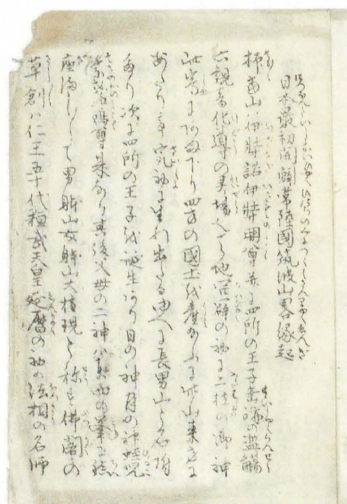
江戸時代刊

江戸時代の筑波山の略縁起。

あらためて表紙を作成することなく、安価に作成されている。

いわば簡易版ガイド。

絵はない。



(巻頭)

本文の漢字の多くに読み仮名が付される。



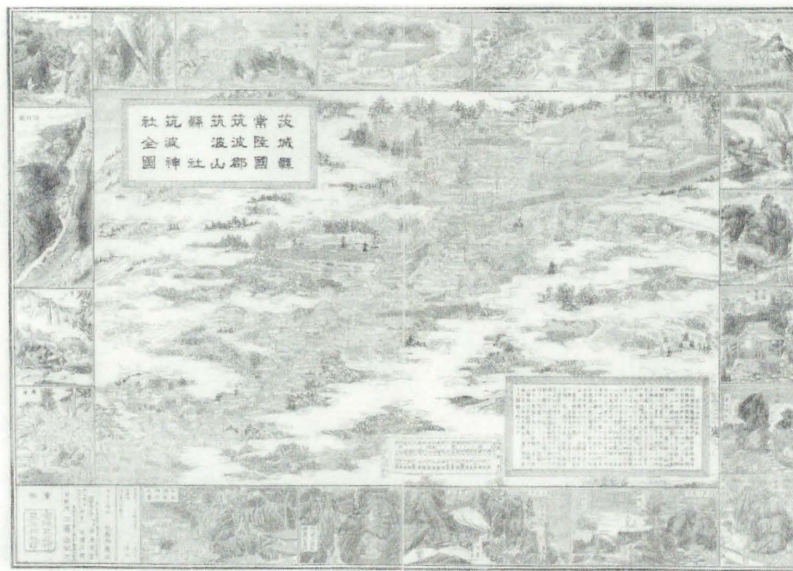
天地開闢筑波山

木版 一枚

江戸時代刊

2 廃仏毀釈以後は「筑波神社」が重要な位置をしめる

茨城県常陸国筑波郡筑波山県社筑波神社全図



明治 21 年 3 月 27

日御届

定価 五銭

筑波山神社

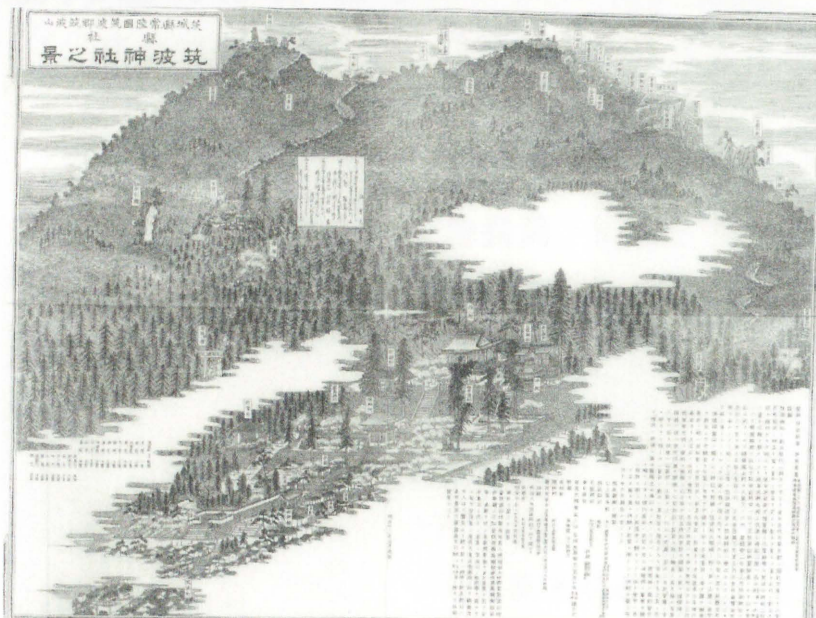
社務所蔵版

編輯兼出版人

桑原武吉

右下に筑波神社由来、囲みに筑波山の名所を紹介

茨城県常陸国筑波郡筑波山県社筑波神社之景



明治 41 年 5 月

22 日 発行

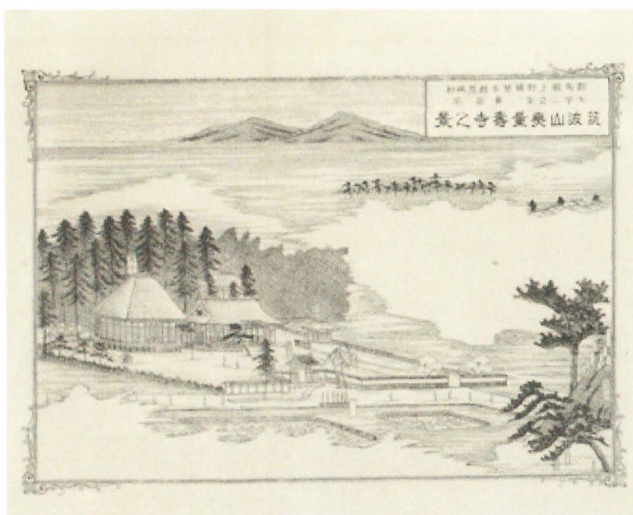
発行兼編集者

土浦町

知久市楼

3 筑波山は山号としても用いられた

筑波山無量寿寺之景(群馬県上野国勢多郡荒砥村)



境内には筑波山を模した山が作られている。



この種の「富士山」は多く作られ、現存するが、かつて筑波山もこのような信仰対象としてミニチュアが作られたことがわかる。



上部に描かれた山は筑波山。

風景画の対象

錦絵



広重画

諸国六十八景

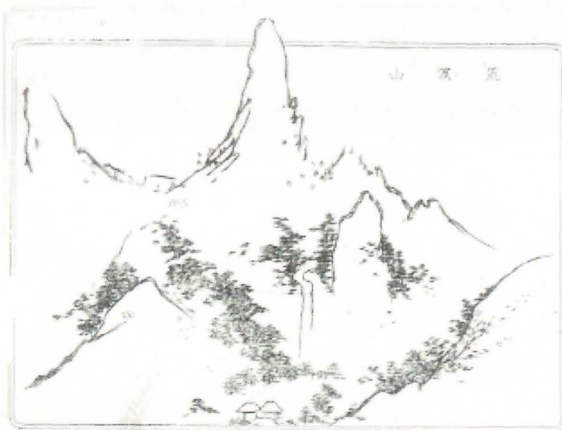
常陸筑波山

中央に鋭角的に切れ込んで描かれたところが、鑑賞のポイントか。

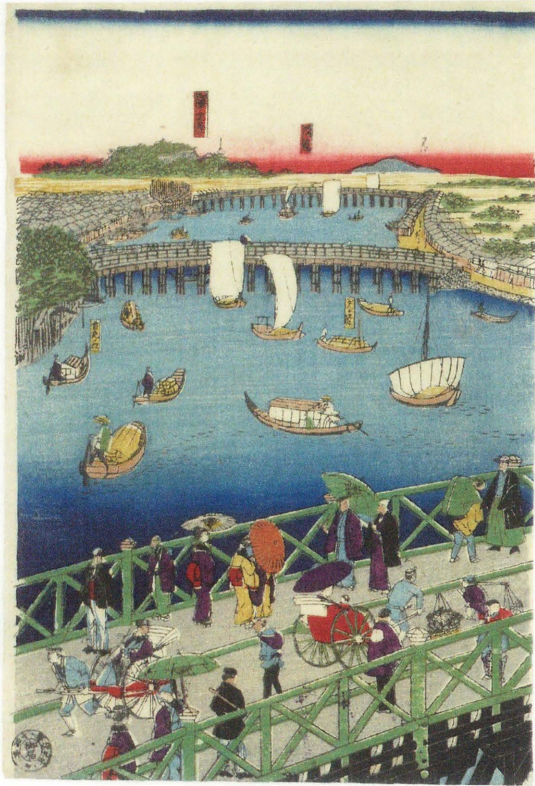
むしろ実景そのものではない。

参考1

『日本名所山水画譜』(明治25年10月刊)所載「筑波山」



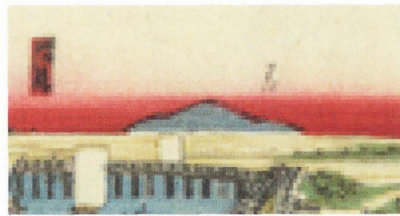
「諸国六十八景」を参考にして描かれたと考えられる。



参考 2

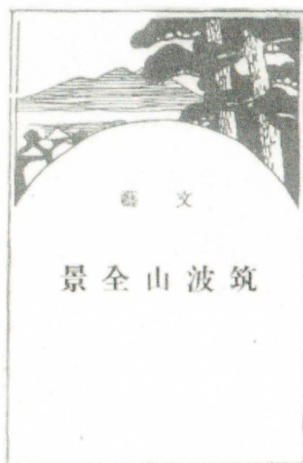
左は明治九年十月に届けが出された、日本橋を描いた錦絵。右上に描かれているのが筑波山である。

江戸や東京を描いた錦絵は富士山をえがくことが多いが、このように筑波山が描かれることもあった。



参考 3

高木蛙朋著『文芸筑波山全景』(昭和7年、白線社)扉絵



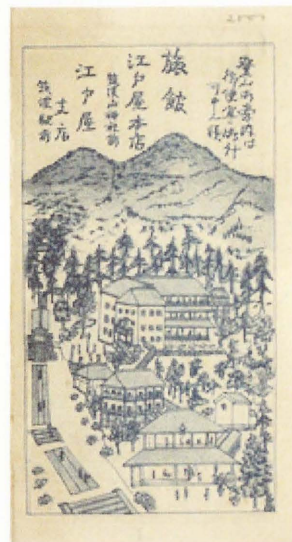
内容が筑波山にかかわりの深い図書には筑波山の表紙絵、挿絵等が載ることがある。『文芸筑波山全景』には口絵にも筑波山の白黒写真が用いられている。

ちなみに文芸資料も豊富である。

観光パンフレット

大正時代以後になると観光パンフレットが作成されるようになる。

横長の厚手の料紙を三つ折り、四つ折り等し、片面に主に文字で観光案内、片面に筑波山周辺の絵地図を掲載するものが多い。

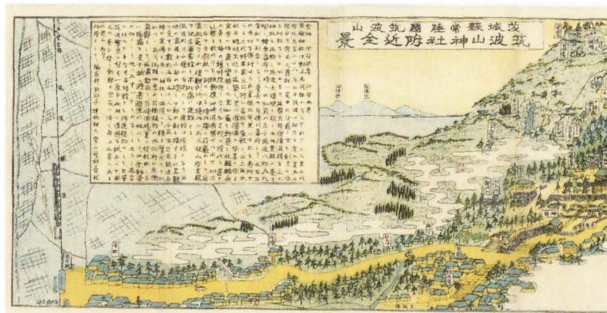


文洋堂発行『筑波登山独案内』。

刊年不明。

左は表紙と「旅館江戸屋」の広告。

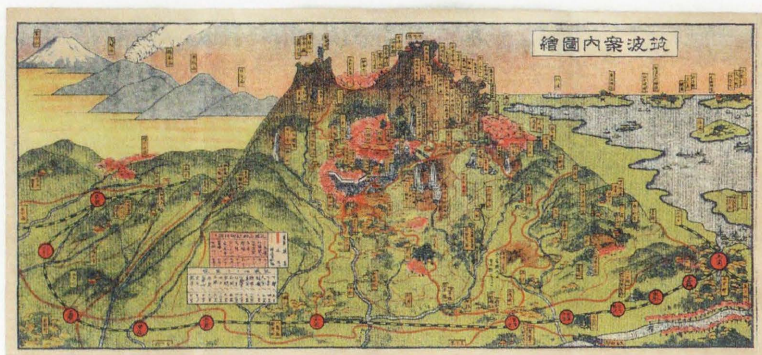
筑波鉄道の時刻表などを付す。



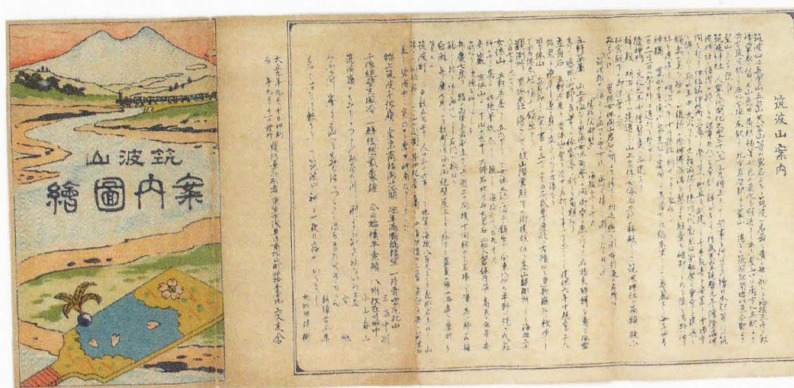
片面は筑波山の全景図。

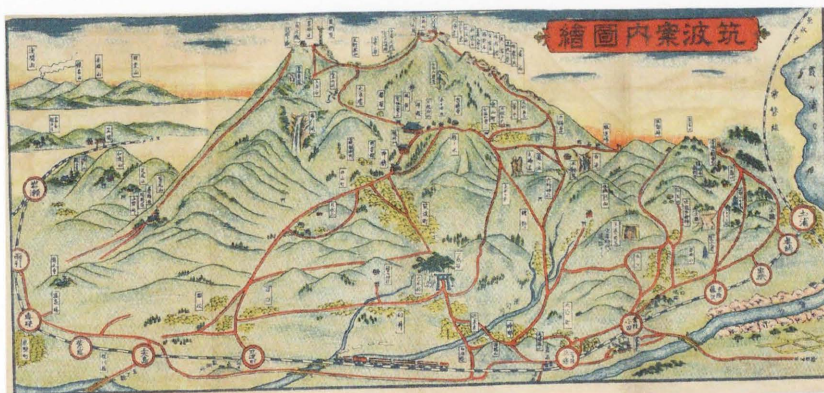
左はその左部分。

天狗屋より、15 銭で販売された『筑波案内図絵』の表面と裏面
初版は大正 8 年 4 月 30 日。掲載したものは大正 10 年 3 月 15 日の4版。



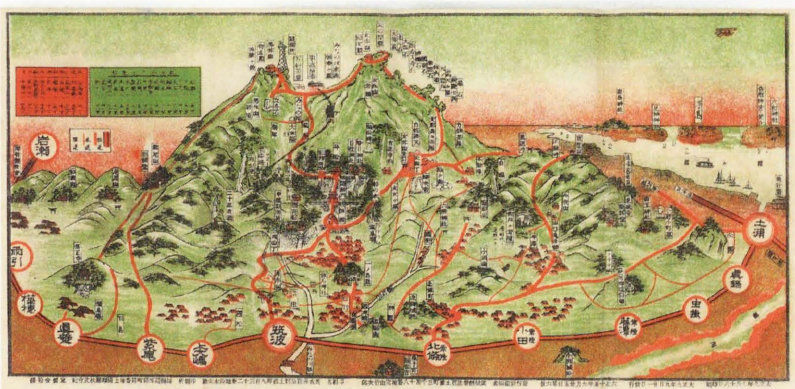
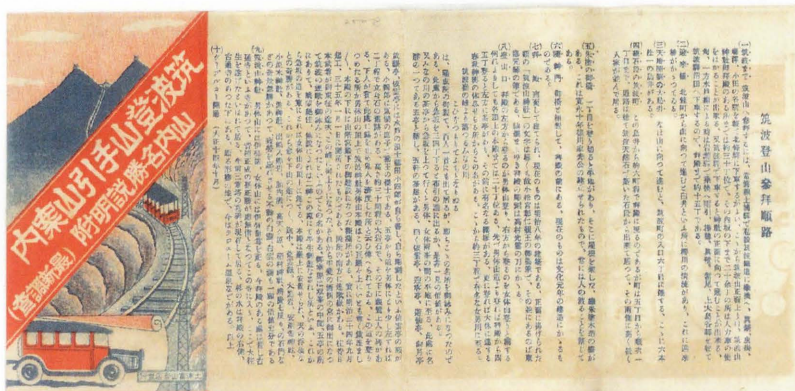
東京浅草の交友舎より、大正 9 年 9 月 10 日に発行された『筑波山案内図絵』の表面と裏面。





土浦富山商店発行より、10 銭で販売された『筑波登山手引山案内』の表面と裏面。

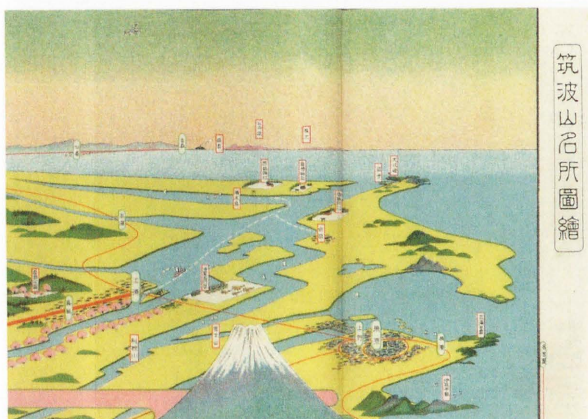
初版は大正 9 年 9 月 18 日。掲載したものは大正 15 年 9 月 25 日の 4 版。



大正 14 年 9 月、大正名所図会社より発行された『筑波山と筑波鉄道』カバーが付され、カバー裏には「筑波山全景」と「筑波町の一部」の白黒写真掲載。



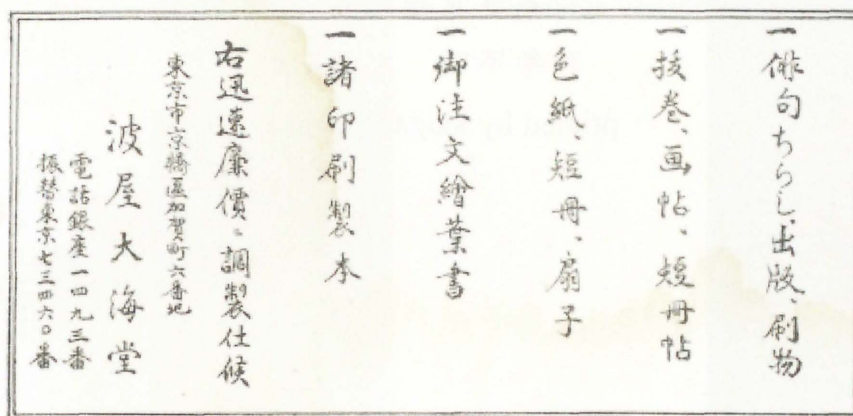
カバー



『筑波山と筑波鉄道』所載
「筑波山名所図会」部分
絵としては
富士山に注目したい。

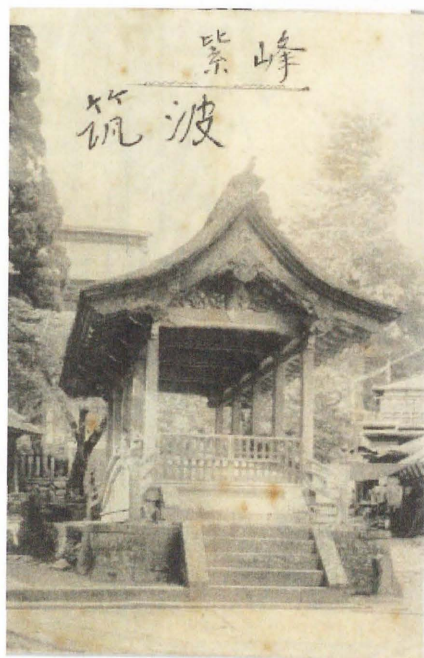
絵葉書

以下は、大正時代の印刷屋の広告である。4 番目に「御注文絵葉書」とある。



筑波山の絵葉書も少なからず作成された。

ばら売りのものもあったかもしれないが、数枚をセットにして袋に入れたものが多く販売されたようである。ここでは、その袋を紹介する。どのようなところを絵葉書にしたかについては、いずれ報告の機会を持ちたい。



絵葉書 袋

白黒写真絵葉書入

刊年不明 大正期か

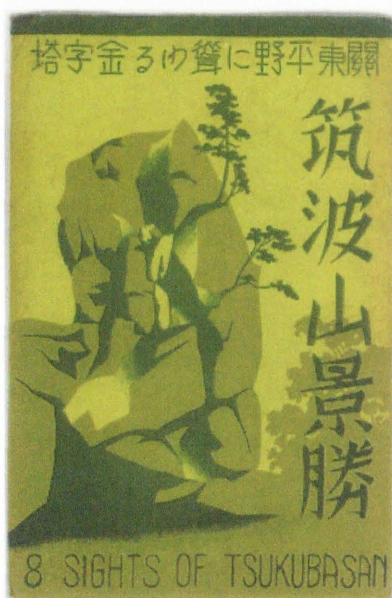


絵葉書 袋

白黒写真絵葉書入

刊年不明 大正期か

printed by kaigakenkyukai



絵葉書 袋

白黒写真絵葉書入

刊年不明 大正期か

printed by kaigakenkyukai

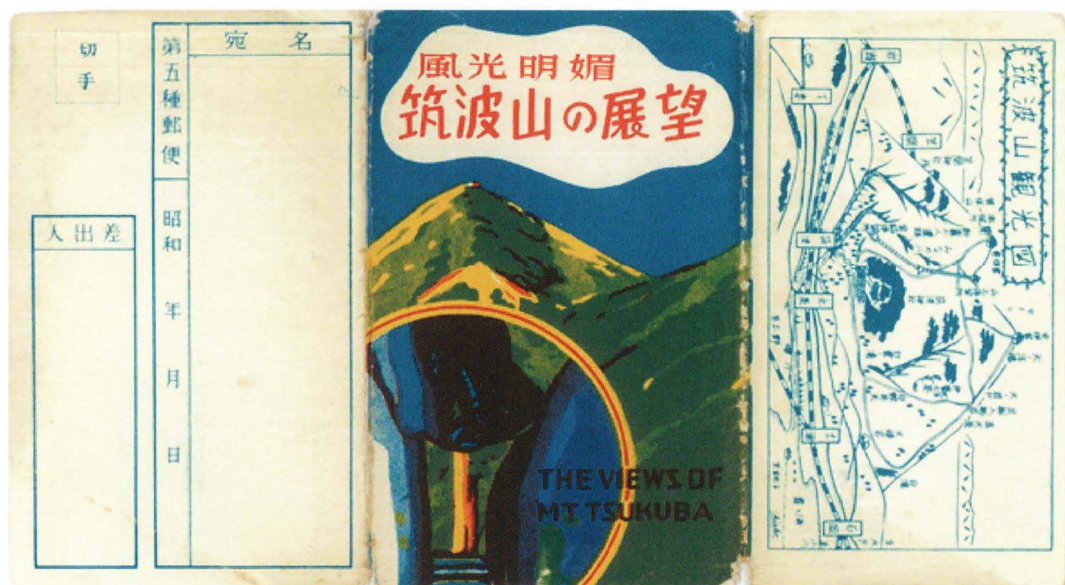


絵葉書 袋

色刷絵葉書入

刊年不明

watanabe-senshodo-sei



絵葉書 ケース

カラー写真絵葉書入

刊年不明

参考



「水郷御案内」に付された地図には
左端に小さく筑波山が画かれている。

